

教育目標 ふるさとを愛し、夢に向かって頑張る子どもの育成「笑顔いっぱい やさしさいっぱい 元気いっぱい」



東小だより

師走号

今年の漢字「密」から思うこと

12月も終盤、年末にさしかかりました。例年、新年を迎える準備で気忙さを感じる今頃ですが、今年は、何か違った感じをうけます。さて、感染症対応から始まった令和二年、終息することなく、一年を終えようとしています。今年は、水害、台風と、未曾有の事態が多い年でもあり、「非日常」を体験した日々でもありました。今後は、「新生活様式」が提案されたように、これまでの「非日常」が「当たり前」になつていくのかもかもしれません。健康を保ち、互いの命を守るためには必要なことだと、留意することから始め、慣れ、そして習慣化へと取り組んでいます。初めの頃は違和感があった色つきマスク、日々の検温、互い違いの座席、無言の食事等も、今では当然のように行つている自分がいます。不思議なものです。ただ、コミュニケーション機会の激減には不安が残ります。私たちは、他人とつながることで安心感を得ています。それも、声や表情、体温などを「感じる」ことで得られるものです。最近よく耳にする「三密」という言葉がありますがマイナスの意味に捉えられています。本来、「密」には、「親しむ」という意味が含まれているそうです。意味通り、物理的には離れていても、心はしっかりとつながりを持つていきたいものです。



これからの生活の中で、感染症対策として密は避けるべきですが、それによつて、人との関係が疎遠にならないように留意することも重要だと考えます。そのためにも心と心の結びつきを意識し、それを実現する心の豊かさを大切にしていきたいものです。

皆様方には、一年、大変お世話になりました。

皆様、よいお年をお迎えください。

ほめ方のポイント

研修会で講師の方が紹介してくださった言葉かけのポイントがあります。相手に伝わるほめ方」といつてもよいと思います。ほめる時には、相手の言動に対して、それを認めたり、感動したり、感謝したりするなどの心の動きを言葉にします。その際、自分本位の表現を用いた言い方になつてしまいがちです。すると、ほめた相手に、自分の思いが十分伝わっていないことがあります。そこで、よいほめ方をするには「I」ということで紹介頂いたのが「YOUメッセージ」と「Iメッセージ」ということです。「YOU」は相手の言動のよさです。「I」は、そのときの自分の感情ということになります。その二つを合わせてほめ言葉にして、相手に伝えるということになります。具体的には、記憶にあられることと思いますが、平成13年の夏場所で、当時の横綱貴乃花が場所優勝した時の表彰式の場面です。内閣総理大臣杯を手渡し、表彰状を読んだ後に突然述べた当時の総理大臣小泉氏の一言がよいお手本です。痛みに耐えて、よく頑張った。感動した。おめでとう。」という、あのフレーズです。高い相手意識と豊かな感性とが相まつて、思わず声となり発してしまつたものだと感じます。子供たちにも伝えていきたい言葉の使い方だと捉えます。言葉のもつ方の影響を考え、人を幸せできる言葉の使い手になりたいものです。実践してみます。

言葉かけ～ほめ方のポイント～

「YOUメッセージ」と「Iメッセージ」

- ◆「YOUメッセージ」…あなたは〇〇です。
例：太郎くんはいい子ですね。後片付けが上手にできて。
- ◆「Iメッセージ」……わたしは〇〇です。
例：お母さん、とっても助かりました。ありがとう。

「YOUメッセージ」だけでは、上から目線。「Iメッセージ」だけでは、ハラメントの可能性あり。



「YOUメッセージ」+「Iメッセージ」で

例：痛みに耐えて、よく頑張った。(YOU)
感動した。おめでとう。(I)

お知らせ

学校歯科医である深川恭至先生が秋の叙勲で「瑞宝双光章」を受章されました。おめでとうございます。深川先生は長年にわたり、学校歯科医として本校をはじめ他校での歯科保健の充実にご貢献されていらつしやいます。先日来校され、受賞のご報告とともに、学校へのご寄付をいただきました。心よりお礼申し上げます。頂きましたお厚志は、歯科保健をはじめ、本校教育の充実のために使わせて頂きます。ありがとうございました。



子供たちの理解と支援のために③

学校では、特別な配慮を必要とする児童に対して、校内の支援体制を整え、学校全体で支援をしています。児童の特性に応じて通常の学級や特別支援学級での指導を行っています。

通常の学級
担任をはじめ教科担当教員などが、特別な支援を必要としている子どもたちが安心して学べるよう配慮し、授業を行います。

通級指導教室
通常の学級に在籍しながら、週1回程度、自校または他校の通級指導教室に通い、特性に応じた専門的な指導を受けることができる教室です。

特別支援学級
児童生徒の障がいの状態や特性等に配慮しながら指導を行います。障害の種類に応じて、特別支援学級を設置しています。

交流及び共同学習

小さなサインを見逃さないようにしましょう。

子どもたちの言葉や行動、態度の中から「困っているよ」「手伝って」「ちょっと助けて」というメッセージを受け止めましょう。

子どもたちの得意なことや、よいところに目を向けましょう。

どの子どもにも個性があります。一人一人の得意なことや特性をしっかりと見て、自信や意欲が高まるようにほめましょう。

子どもが安心して学習し、行動できる環境を整えましょう。

はじめに手順を説明する、写真や絵カードを用意する、不安定になった時のためにゆっくりできるスペースを作っておくなど、安心して学習し行動できる環境になるように工夫しましょう。



熊本市教育委員会発行パンフレットより

東っ子のかがやき

持久走大会(12/11)

1. 2年生は、1. 2km 2400歩、3. 4年生は、2. 3km 4600歩、5. 6年生は、3. 4km 4900歩の自分への挑戦でした。応援する人たちも、気持ちを向け、声を向け、目を向けて、しっかりと温かい言葉をかけていました。また、保護者の方々が、応援小旗を手作りされ、それぞれの思いを書き込み応援してくださいました。マスクで届かない声援も小旗を目にすれば、思いが伝わることです。全員完走で、心と体もポッカポッカの東っ子たちでした。



1・2年生スタート(1. 2km)



3・4年生スタート(2. 3km)



5・6年生スタート(3. 4km)



手作りの応援小旗をふって応援

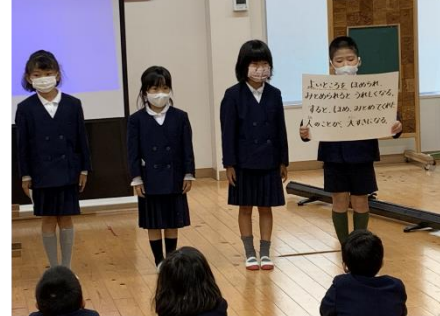
移動図書館 大盛況

毎月一回、移動図書館(車)が来校します。その日の昼休みになると、本大好きな東っ子が集まります。それぞれにたくさんの本を抱え、係の方に手続きをする姿は、とてもいい光景です。たくさん読んで、心も逞しく、豊かになってほしいと願います。



人権旬間(11/30~12/11)

11月30日から12月11日まで人権旬間でした。この期間中、学校生活を中心に、様々な人権について深く捉える取組を進めました。その一環として、人権集会を開きました。「東っ子の誇りについて考えよう」を集会テーマとして、学校生活を中心に、様々な人権と、その大切さ、心持ち、言動について考えていきました。「気づき・考え・行動する自分の一歩先にいる自分を発見してほしい」と願います。



人権を大切にしたい経験について発表する東っ子



すごろくゲームで互いのよさを知る東っ子



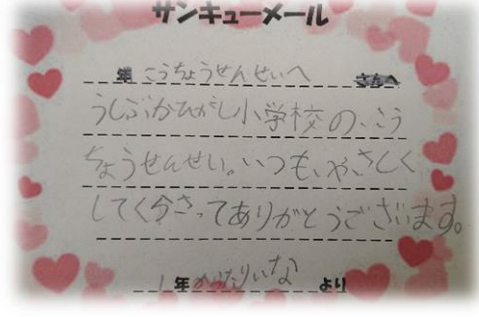
拉致問題をもとに人権について考える東っ子

牛深東小学校なかよし宣言

友だちをよぶときは「さんくん」をつけてよびます。

相手の気持ちを思いやった言い方をします。

友だちとたすけあいます。



1年生から届いたお手紙「サンキューメール」

牛深ハイヤの歴史の学び

3年生が総合的な学習の時間で「牛深ハイヤ」について学びを深めています。牛深総合センター館長の西嶋様に講師としてお出でいただき、ハイヤの歴史とハイヤ節(歌詞)の意味について学びました。三味線に合わせて全員で合唱しながら真剣に、そして楽しくふるさとの宝について学びました。



第1・2回ハイヤ祭りのポスター